

SBSロジコム

単なる配送で終わらない
効率化支える「粋」な業務

SBSロジコム（本社・東京、鎌田正彦社長）は、「二子玉川ライズ」など都内の大型複合施設で館内物流サービスを展開している。施設の規模や機能、地域性に合わせて仕組みをつくる同社の館内物流は、近隣道路の渋滞緩和やCO₂（二酸化炭素）削減など社会貢献を内包する事業に発展。「表立たず館内の物流効率化を支える」粋なサービス（三身直人営業本部長）だ。（水谷 周平）

設計段階から入り込む

SBSロジコムが手掛ける館内物流の歴史は、都内渋谷区の大規模複合施設向け業務を開始した平成12年にまでさかのぼる。当初はビルに押し寄せ大量の荷物をどうさばき、迅速・確実に各テナントへ送り届けるかがテーマだった。

サービスが進化したのは19年に開始した大型複合施設「Thin

k Park Tower（シンクパーク・タワー）（品川区）の業務から。施設の設計段階から参画し、台車が相互通行可能な通路の確保や曲がり角のミラー設置などを施工主、建設会社に提案。「蓄積したデータを生かし車両台数や物量をシミュレーション」（三身次長）。スムーズで安全な配送が行える環境を整えた。入居するテナントの移転作業も一元的にコントロール。引越し事業者のスケジュールを管理するだけでなく、時

宅配貨物から弁当まで

Think Park Towerの業務で培ったノウハウを基に、新規開拓を推進。22年に参議院議員会館（千代田区）、24年に「中野セントラルパーク」（中野区）、23年から27年にかけてオフィスや商業店舗、ホテルが集積する複合施設「二子玉川ライズ」（世田谷区）1期、2期事業エ

リアの業務を開始した。

SBSロジコムの館内物流は、宅配貨物や郵便物の集配代行や搬入・搬出管理にとどまらない。自動販売機の商品や現金など専門業者の直納が必要なものの以外は全て扱う。「新聞や仕出し弁当も届ける」（三身次長）。荷物をまとめて配送することでエレベーターの使用頻度を低減。入居テナントのメリットにもつながっている。



若手のスタッフが活躍する「二子玉川ライズ」（都内世田谷区）の館内物流

納品車両や事業者の出入りも一元管理。車両の着車時間を事前に登録させるなど綿密なタイムスケジュールを整え、最小限の駐車スペースを効率的に運用する。朝のピーク時も公道に車があふれることはない。情報システムによる入退館管理体制を整えるなどセキュリティも万全だ。各車両から降ろされた荷物を独自の情報システムに登録。素早くエリアごとに仕分け、荷さばき場に滞留させることなく計画的に配送する。施設内の壁を傷つけないよう、配送用台車に保護材を付けたといった工夫も。定期的に施設管理会社やテナントと協議し、常に課題抽出と改善を図る取り組みを進めている。

生産性、数値で「見える化」

地域に根差したサービスの在り方も追求する。施設内の物流集約で近隣の交通渋滞緩和やCO₂削減の効果

が出ているほか、近くに学校があれば通学時間中の搬入作業を止める配慮も。地元中学生の職場体験も受け入れ、物流の仕組みを教えている。

館内物流では若手スタッフが活躍。「二子玉川ライズ」ではスタッフに施設名を入れた制服を着せ、マナー教育を徹底。施設のスタッフの一員として従事させている。

また、生産性や適正な人員配置も数値管理で「見える化」。「スタッフ一人一人に認識させ、物量に合わせて臨機応変な対応が可能」（同）。3PLを手掛ける事業所に人材を送り出す「育成の場」でもある。

都内中央区に今春開業するビルの館内物流を受注するなど、新しいプロジェクトも始動。今後は、人材不足に対応し、女性や高齢者、障害者の雇用を進める方針。機密文書処理や即日配送などSBSグループのノウハウを生かし、館内物流を起点にビジネスの幅を広げていく考えだ。